

社団日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

<p>代表者氏名 (ふりがな)</p>	<p>横澤 一彦 (よこさわ かずひこ)</p>	<p>所属</p>	<p>東京大学 大学院人文社会系研究科</p>
<p>研究集会等名称</p>	<p>「注意と認知」研究会</p>		
<p>成果概要</p>	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員        29 (第8回) + 33 (第9回) 名 (うち認定心理士    0名) 非会員       0名 (うち認定心理士    0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>注意と認知に関わる研究発表 (すべて、口頭発表) と討論の場を提供し、議論を通して研究者同士の親睦を深める目的で、2回の合宿研究会を実施しました。</p> <p>2010年3月28日 (日) から30日 (火) まで、金沢都ホテルにおいて、第8回合宿研究会を開催しました。京都大学の櫻井芳雄先生に「ブレイン・マシン・インタフェースがしめす脳の情報表現と可塑性」という特別講演をお願いしました。第8回合宿研究会の参加者は29名で、21件の一般講演では、活発な議論が交わされました。</p> <p>また、2011年3月13日 (日) から15日 (火) まで、ホテルサンルートプラザ名古屋において、第9回合宿研究会を開催しました。この研究会は、日本認知科学会「パターン認識と知覚モデル」研究分科会との合同で企画し、生理学研究所の定藤規弘先生に「社会能力の発達過程：脳機能画像法によるアプローチ」、京都大学霊長類研究所の友永雅己先生に「チンパンジーにおける視覚認知：比較認知科学的パースペクティブ」という特別講演をお願いしました (合同企画ですが、定藤先生の講演は日本認知科学会「パターン認識と知覚モデル」研究分科会、友永先生の講演は「注意と認知」研究会から依頼しました)。第9回合宿研究会の参加者は33名で、23件の一般講演では、活発な議論が交わされました。</p> <p>今後共、年に1回の合宿研究会を実施する予定です。</p>		